

◎兵庫県立尼崎総合医療センターの概要

1 診療機能

(1) 基本的な機能

- ① 救命救急センターを設置して3次救急に対応し、24時間365日断ることなく救急患者に対応するER型救急医療の提供
- ② 小児中核病院として、小児の2次及び3次救命救急医療を24時間365日提供
- ③ 総合周産期母子医療センターとして、妊婦及び新生児に対する総合的な周産期医療の提供
- ④ 5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患）にかかる医療及びその他の政策医療の提供

(2) 診療科目 48診療科

内科系	救急総合診療科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、心療内科、緩和ケア内科、感染症内科、漢方内科、精神科、膠原病リウマチ内科、アレルギー科
外科系	外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、歯科口腔外科
小児科系	小児科、小児外科、小児循環器内科、小児アレルギー科、小児神経内科、小児血液・腫瘍内科、新生児内科、小児脳神経外科、小児感染症内科、小児形成外科
救急	救急集中治療科、小児救急集中治療科
診断治療部門	放射線診断科、放射線治療科、病理診断科

(3) 病床数 730床

一般病床548床、救命救急54床、無菌室22床、感染症病床8床、精神身体合併症管理病床8床、集中治療系98床

2 理念・基本方針

理 念

高度・良質な医療による社会貢献

運営の基本方針

1. 阪神地域中核病院としての「高度専門・救急医療」
2. 患者・医療者間、お互いの「納得・安全・チーム医療」
3. 救急・紹介を「断らない医療」
4. 住民・患者・医療者・福祉・介護・行政が全体で1つの「地域医療」
5. 医療水準向上のための「教育・臨床研究・自己研鑽」

3 施設概要

(1) 住 所：尼崎市東難波町2丁目17番77号

阪神尼崎駅から北西に約1.5km 徒歩約19分 市バス約5分

阪急塚口駅から市バス約10分、JR尼崎駅から市バス約12分

T E L：06-6480-7000

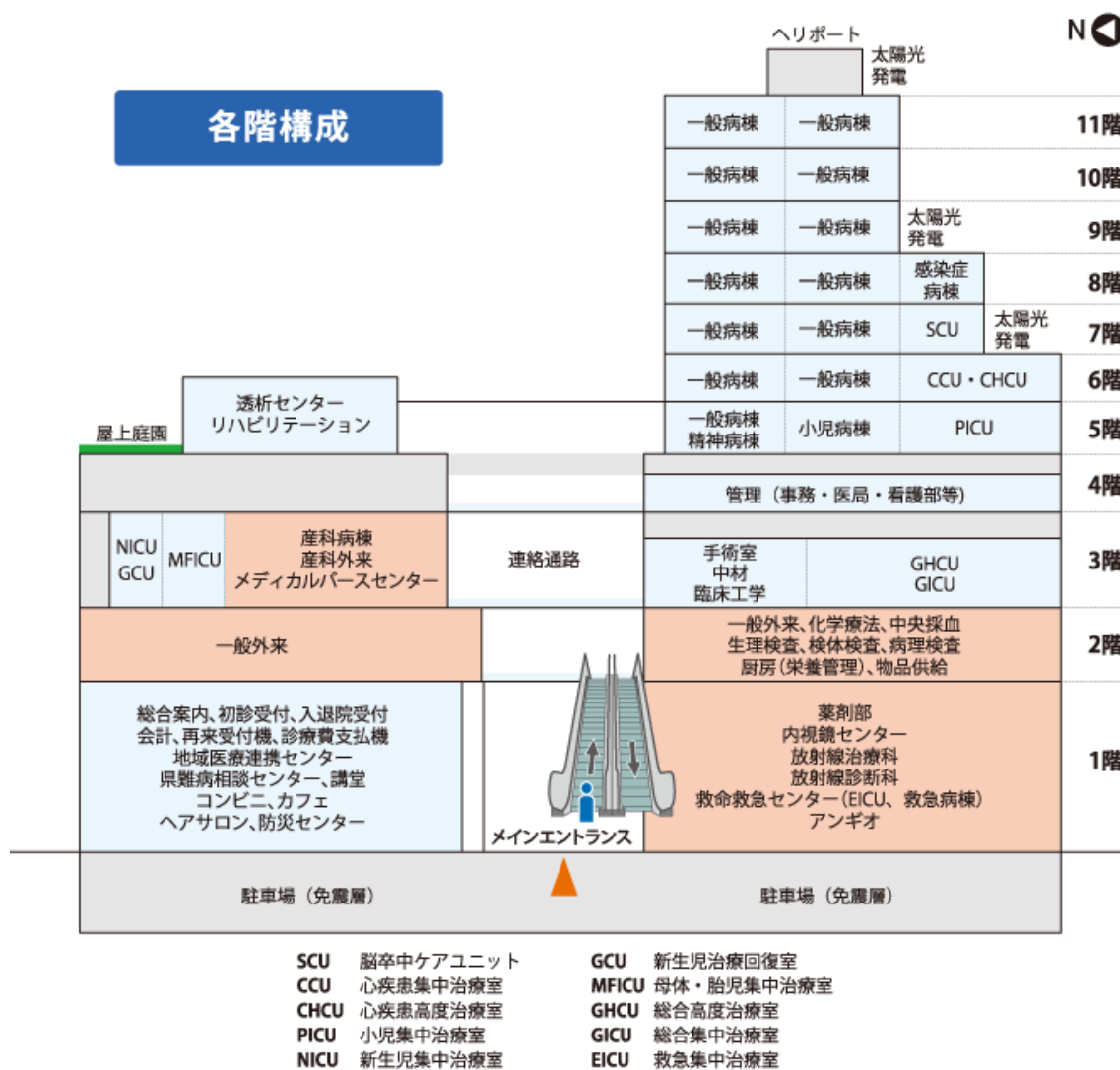
F A X：06-6480-7001

Email：resident@agmc.hyogo.jp

病院長：大嶋 勇成

(2) 構造規模 鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造（免震構造）

(3) 施設配置



4 施設の特徴

- (1) 高度な救急・周産期医療機能を存分に発揮する基幹病院
- (2) 「わかりやすさ」と「ゆとり」をあわせもつ患者本位の病院
- (3) 災害時も機能し続ける安全安心の拠点病院
- (4) 教育・研修・研究機能を充実したマグネット・ホスピタル
- (5) 環境に優しいエコホスピタル

兵庫県立尼崎総合医療センター初期臨床研修の理念と特色

すべての研修医が、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践し、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる外傷又は疾病に適切に対応できるよう、チーム医療を遂行する中で幅広い基本的な診療能力を身につけ、医師としての人格を涵養し、地域や社会に貢献できるようになることを目標とする。このプログラムでは阪神地区の中核病院である県立尼崎総合医療センターとそれぞれの地域性や専門性に特徴を有する県立病院、尼崎市医師会、公立豊岡病院組合の協力施設等が病院群を形成しており、プライマリ・ケアの基本的診療能力を効率的に身につけることができると同時に、地域と連携した医療の実践から高度医療を担う県立病院の専門性を生かした研修まで企画されている。またこのプログラムを終了した研修医には兵庫県立各病院での後期研修プログラムが用意されており、県民に貢献できる使命感あふれた医師の養成を目指している。

上記に基づいて、病院の理念・基本方針とは別に「臨床研修の理念・基本方針」をまとめている。

臨床研修の理念・基本方針

基本理念

マグネット・ホスピタルの機能を有する阪神地区の総合的な基幹病院として、良質かつ適切な医療を提供することにより、地域住民の安全と安心の確保に貢献すると共に医学の発展に寄与します。

運営の基本方針

1. 患者さんの立場に立った医療サービスに努め、患者さんと医療従事者の信頼関係に基づいた医療を提供します。
2. 阪神地区の総合的な基幹病院として、医療の進展に対応するとともに充実した診療体制のもと、先進的な高度専門医療を提供します。
3. 患者さん・家族・地域の医療機関・保健機関・福祉機関と相互に連携し、切れ目のない地域医療の実現に寄与します。
4. 大規模な自然災害や事故、強力な感染症の流行等の発生時において、地域住民の安全と安心の確保に貢献します。
5. 医療事故、院内感染等の防止のための医療安全対策を充実し、患者さんにとって安全で安心な病院づくりを目指します。
6. 体系的なプログラムに基づいた教育・研修・研究を行い、医療従事者の養成ならびに医学の発展に寄与します。

◎初期臨床研修プログラムの概要

【初期臨床研修プログラム 一般コース 定員19名】

プログラム責任者 松村毅 副プログラム責任者 蔭山豪一

プログラムの特色

- 1 高度医療を担う地域中核急性期型病院の特徴を生かし、common diseaseから専門性の高い疾患まで症例が非常に多彩で豊富なのが第一の特色です。
- 2 教育熱心な指導医と若手医師による屋根瓦式指導体制を採り、手技は積極的に経験させる長年の臨床研修病院としての伝統があります
- 3 内科、救急、外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療および一般外来研修が必修研修で、麻酔科は院内必修研修です。
 - ① 診療科間の垣根はとて低く、アットホームな研修環境が自慢です。
 - ② 充実した専門医による専門教育導入と専門研修プログラムを用意しています。
 - ③ 多彩な大学出身の研修医達が互いに励まし合い、切磋琢磨しています。

選択研修は当院ではもちろんのこと、県立病院群形成による総合型病院（西宮、淡路、加古川、丹波、はりま姫路）および専門型病院（こども病院、がんセンター、ひょうごこころの医療センター、粒子線医療センター、災害医療センター、リハビリテーション中央・西播磨病院など）でも研修が可能で、多彩な選択が可能です。



2025年度採用 初期研修医

研修方式

1 スーパーローテーション方式

1年次には内科32週、救急8週（救急総合診療科）、外科4週、麻酔科4週を必修研修とし、2年次には小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、地域医療1ヶ月、精神科1ヶ月、救急2ヶ月（救急科1ヶ月、救急総合診療科1ヶ月）、外来1ヶ月（救急総合診療科）を必修研修とする。一般外来研修は総合診療科でブロック研修として行い、不足があれば地域医療で補う。残りの5ヶ月は選択研修となる。選択研修では、当院に加え兵庫県立臨床研修病院群の中から幅広い選択の機会が用意されている。

2 研修医ローテーションの例

1年次 (52週)								2年次 (12ヶ月)												
1週	24週 (+3週)			4週	4週	8週	4週	4週	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
オリエンテーション	内科				救急	外科	麻酔科	小児科	産婦人科	地域医療	精神科	救急		外来	選択研修					
	呼内・糖内・神内・血内・腎内・リウマチ (2科8週)			循内								消内	救急	総合診療						

3 必修研修科目の研修概要

- ① 内科研修：内科診療科（循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、腎臓内科、膠原病リウマチ内科）を内科領域の到達目標を達成できるようにローテート研修する。循環器内科と消化器内科以外の6科を2科ずつ3グループに分け、1グループに8週間配属される。循環器内科と消化器内科は単独科4週研修とする。
- ② 救急研修：救急研修は1年次に8週（救急総合診療科8週）、2年次に2ヶ月（救急科1ヶ月、救急総合診療科1ヶ月）行う。1年次の救急総合診療科では基本的診察技法や、臨床推論などを習得するとともに、救命救急センターで救急の初期対応を学ぶ。2年次の救急科では、救急初療に加えて、EICUでの救急重症者管理、救急病棟での入院患者診療処置を学ぶ。
- ③ 麻酔科研修：院内必修研修としている。4週間麻酔科に配属され、気道確保・気管挿管・静脈路確保などの基本手技について学び、手技を体得する。
- ④ 外科研修：消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科患者の担当医となり、周術期管理、基本的外科診療を4週間研修する。
- ⑤ 小児科研修：一般小児科で1ヶ月間研修を行う。
- ⑥ 産婦人科研修：産婦人科で1ヶ月間の産婦人科研修を行い、分娩を経験する。
- ⑦ 精神科研修：県立ひょうごこころの医療センターで1ヶ月間の研修を行う。
- ⑧ 地域医療研修：2年次に1ヶ月間地域の医療機関【尼崎市医師会、こだま病院（宝塚市）、公立豊岡病院組合立出石医療センター、日高クリニック、朝来医療センター、公立香住病院、公立村岡病院、公立浜坂病院から選択】で研修を受ける。
- ⑨ 一般外来研修：2年次に総合診療科で1ヶ月間ブロック研修する。不足が生じた場合、地域医療研修で補う。

4 選択研修科目

基本研修科目や必修選択科目の充実・補完ならびに将来専攻する専門科での研修など、研修医の多様な希望に応えるために5ヶ月間は当院を含めた県立病院群での研修を選択できる。

「医師臨床研修ガイドライン」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_03924.html に定められた感染対策、予防医学、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンスド・ケア・プランニング、臨床病理検討会（CPC）等については、個々の研修や研修会に加えてチーム医療に参画することによって研修する。

経験すべき29症候、経験すべき26疾病・病態（外科手術に至った症例を含む）については、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、および考察を含むことが求められており、これらを含む病歴要約を作成し指導医の評価を受けることを義務づけている。

【初期臨床研修プログラム 小児科専門コース 定員2名】

プログラム責任者 毎原 敏郎

プログラムの特色

- 1 阪神地域の中核病院として、全 48 診療科との協力の下に研修医としての総合的な能力を育成する指導体制を持つ
- 2 小児総合診療科・感染症内科以外に、新生児内科（NICU/GCU）、小児脳神経内科、小児血液・腫瘍内科、小児救急集中治療科（PICU）、小児循環器内科での研修がある（一部は選択制）
- 3 救命救急センターにおいて、外傷も含めた小児の救急医療を経験する
- 4 県立病院群として専門型病院（県立こども病院、ひょうごこころの医療センター、災害医療センター、リハビリテーション病院など）や地域病院での研修が選択できる

目標の概要

すべての研修医が全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践し、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる外傷・疾病に適切に対応できるように、またチーム医療を遂行する中で幅広い基本的な臨床能力を身につけ、医師としての人格を涵養し、地域や社会に貢献できるようになることを目標とする。特に小児科専門コースにおいては、「臓器・疾患の専門である」前に「子どもが専門である」という心構えで、内科疾患だけでなく外科疾患、外傷も含めた救急、心身症や発達障害、児童虐待などにも幅広く対応できる総合力を養うことが目標である。

研修期間

2年

研修方式

1 基本的な研修プログラム

1年次は当センターの一般コースの初期研修プログラムと同様である。必修研修は、1年次には必修科目の内科32週、救急8週（救急総合診療科）、外科4週、麻酔科4週、2年次には小児科2ヶ月、新生児内科（NICU）1ヶ月、産婦人科1ヶ月、地域医療1ヶ月、精神科1ヶ月、救急科2ヶ月（救急科1ヶ月、救急総合診療科1ヶ月）、外来1ヶ月（救急総合診療科）とする。一般外来研修は総合診療科でブロック研修として行い、不足があれば地域医療で補う。残りの3ヶ月は選択研修となる。選択研修では当院に加え、兵庫県立臨床研修病院群から幅広い選択の機会が用意されている。

2 研修医ローテーションの例

1年次（52週）								2年次（12ヶ月）												
1週	24週（+3週）			4週	4週	8週	4週	4週	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
オリエンテーション	内科				救急	外科	麻酔科	小児科		産婦人科	地域医療	精神科	救急		外来	選択研修				
	呼内・糖内・神内・血内・腎内・リウマチ（2科8週）			循内				消内	小児科				N I C U	救急						総合診療

3 必修研修科目の研修概要

- ① 内科研修：内科研修（循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、腎臓内科、膠原病リウマチ内科）を内科領域の到達目標を達成できるようにローテート研修する。循環器内科と消化器内科以外の6科を2科ずつ3グループに分け、1グループに8週間配属される。循環器内科と消化器内科は単独科4週研修とする。
- ② 救急研修：救急研修は1年次に8週（救急総合診療科）、2年次に2か月（救急科1ヶ月、救急総合診療科1ヶ月）行う。1年次の救急総合診療科では基本的診察技法や、臨床推論などを習得するとともに、救命救急センターで救急の初期対応を学ぶ。2年次の救急科では、救急初療に加えて、EICUでの救急重症者管理、救急病棟での入院患者診療処置を学ぶ。
- ③ 麻酔科研修：院内必修研修としている。4週間麻酔科に配属され、気道確保・気管挿管・静脈路確保などの基本手技について学び、手技を体得する。
- ④ 外科研修：消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科患者の担当医となり、周術期管理、基本的外科診療を4週間研修する。
- ⑤ 小児科研修：小児科として、2年次に2か月間の研修を行う。原則として小児総合診療科・感染症内科での研修とする。
- ⑥ 新生児内科（NICU/GCU）研修：2年次に1か月間の研修を行う。
- ⑦ 産婦人科研修：産婦人科で1ヶ月間の産婦人科研修を行い、分娩を経験する。
- ⑧ 精神科研修：県立ひょうごこころの医療センターで1ヶ月間の研修を行う。
- ⑨ 地域医療研修：2年次に1ヶ月間地域の医療機関【尼崎市医師会、こだま病院（宝塚市）、公立豊岡病院組合立出石医療センター、日高クリニック、朝来医療センター、公立香住病院、公立村岡病院、公立浜坂病院から選択】で研修を受ける。希望があれば、小児科を標榜する診療所での研修を選択できる。
- ⑩ 一般外来研修：2年次に総合診療科で1ヶ月間ブロック研修する。不足が生じた場合、地域医療研修で補う。

4 選択科目の研修概要

必修科目研修の充実・補完ならびに将来専攻する専門科での研修など、研修医の多様な希望に応えるために、最長3ヶ月間当院を含めた県立病院群での研修を選択できる。その際に、研修期間は2ヶ月以上を1単位とし、同一科目を3ヶ月選択することも可能とする。また漢方内科など1ヶ月単位での研修ができる診療科もあり、選択期間は柔軟に対応している。

小児に関連する診療科としては、小児総合診療科・感染症内科以外に、小児脳神経内科、小児血液・腫瘍内科、小児循環器内科、小児救急集中治療科（PICU）がある。選択科目として、これらの診療科で研修を受けることができる。

【初期臨床研修プログラム 産科コース 定員2名】

プログラム責任者 田口 奈緒

プログラムの特色

- 1 高度医療を担う地域中核病院の特徴を生かした豊富な症例数と院内外での多彩な学習機会を提供する
- 2 指導医と若手医師による屋根瓦方式を目指したマンツーマン指導体制を整備している
- 3 充実した専門医による専門教育の導入と後期研修医（専攻医）への進路相談を行う
- 4 県立病院群形成による専門型病院（こども病院、がんセンター、ひょうごこころの医療センター、粒子線医療センター、災害医療センター、リハビリテーション病院等）での選択研修の機会と県立11病院での後期研修が可能である
- 5 産婦人科コースとして、将来産婦人科医となるための動機づけ、準備となるよう産婦人科および産婦人科関連診療科で重点的に研修を実施する

目標の概要

すべての研修医が、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践し、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる外傷又は疾病に適切に対応できるよう、チーム医療を遂行する中で幅広い基本的な臨床能力を身につけ、医師としての人格を涵養し、地域や社会に貢献できるようになることを目標とする。このプログラムでは阪神地区の中核病院である県立尼崎総合医療センターとそれぞれに地域性や専門性に特徴を有する県立病院及び尼崎市医師会が病院群を形成しており、プライマリ・ケアの基本的診療能力を効率的に身につけることができると同時に、地域と連携した医療の実践から高度医療を担う県立病院の専門性を生かした研修まで企画されている。またこのプログラムを終了した研修医には兵庫県立各病院での産婦人科後期研修プログラムが用意されており、県民に貢献できる使命感あふれた医師の養成を目指している。

研修期間

2年

研修方式

1 基本的な研修プログラム

1年次には内科24週、産婦人科8週、救急8週（救急総合診療科）、外科4週、麻酔科4週を必修研修とし、2年次には小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、地域医療1ヶ月、精神科1ヶ月、救急2ヶ月（救急科1ヶ月、救急総合診療科1ヶ月）、外来1ヶ月（救急総合診療科1ヶ月）を必修研修とする。一般外来研修は総合診療科でブロック研修として行い、不足があれば地域医療で補う。残りの5ヶ月は選択研修となる。選択研修では当院に加え、兵庫県立臨床研修病院群の中から幅広い選択の機会が用意されている。

2 研修医ローテーションの例

1年次（52週）										2年次（12ヶ月）											
1週	16週（+3週）			4週	4週	8週	8週	4週	4週	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
オリエンテーション	内科				産婦人科	救急	外科	麻酔科	小児科	産婦人科	地域医療	精神科	救急		外来	選択研修					
	呼内・糖内・神内・血内（2科8週）			循内									消内	救急	総合診療						

3 必修研修科目の研修概要

- ① 内科研修：内科研修（循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科）を内科領域の到達目標を達成できるようにローテーション研修する。循環器内科と消化器内科以外の4科を2科ずつ2グループに分け、1グループに8週間配属される。循環器内科と消化器内科は単独4週研修とする。
- ② 救急研修：救急研修は1年次に8週（救急総合診療科8週）、2年次に2ヶ月（救急科1ヶ月、救急総合診療科1ヶ月）行う。1年次の救急総合診療科では基本的診察技法や、臨床推論などを習得するとともに、救命救急センターで救急の初期対応を学ぶ。2年次の救急科では、救急初療に加えて、EICUでの救急重症者管理、救急病棟での入院患者診療処置を学ぶ。
- ③ 麻酔科研修：院内必修研修としている。4週間麻酔科に配属され、気道確保・気管挿管・静脈路確保などの基本手技について学び、手技を体得する。
- ④ 外科研修：消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科患者の担当医となり、周術期管理、基本的外科診療を4週間研修する。
- ⑤ 産婦人科研修：尼崎総合医療センターにおいて12週（3ヶ月）の研修を行う。
- ⑥ 小児科研修：一般小児科で1ヶ月間研修を行う。
- ⑦ 精神科研修：県立ひょうごこころの医療センターで1ヶ月間の研修を行う。
- ⑧ 地域医療研修：2年次に1ヶ月間地域の医療機関【尼崎市医師会、こだま病院（宝塚市）、公立豊岡病院組合立出石医療センター、日高クリニック、朝来医療センター、公立香住病院、公立村岡病院、公立浜坂病院から選択】で研修を受ける。
- ⑨ 一般外来研修：2年次に総合診療科で1ヶ月間ブロック研修する。不足が生じた場合、地域医療研修で補う。

5 選択研修科目の研修概要

必修科目や選択必修科目研修の充実・補完ならびに将来専攻する専門科での研修など、研修医の多様な希望に応えるために、5ヶ月間は当院を含めた県立病院群での研修を選択できる。

オリエンテーション 本研修前に研修オリエンテーションがある

- 1 院長以下、病院幹部による当院の組織および特性のオリエンテーション
- 2 保険医療制度の説明
- 3 医の倫理、保険診療、病理解剖、感染症対策、輸血、終末期緩和医療、リスクマネジメント、インフォームドコンセントなどについての講義・研修。内容は年度により異なる。
- 4 実技研修（採血・注射、手術の手洗い実習）
- 5 電子カルテの半日研修
- 6 研修医勉強会

共通臨床研修

- 1 全研修医が共通に習得すべき研修項目カンファレンスを研修医が自主的、継続的に1年目に行い、指導医が支援する。
- 2 各種セミナー、感染対策、予防医療、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)等をテーマとした講習会のほか、感染管理チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)、認知症・せん妄サポートチーム(DDST)、呼吸ケアサポートチーム(RST)、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム(NST)など多職種協働によるチーム医療を理解すると共に、活動に参加してみる。
- 3 ACLSコース
年2～3回のICLS講習会を研修医・専攻医・看護師が主体となって準備から運営まで行う中で、研修医をインストラクターとして養成する。
- 4 CPC：ほぼ毎月1回、すべての研修医、指導医、病理医が参加しCPCを行う。担当した研修医は、症例提示を行い、フィードバックを受け、考察を含めて最終的なまとめを行う。
- 5 研修終了時に研修成果を発表する研修医発表会がある。同時に優秀研修医(junior resident of the year)の授与式が行われる。



♪2017年度生 研修医発表会♪



#2018年度 junior resident of the year表彰式#

研修記録および評価

研修管理委員会は研修医手帳を発行し、研修医は常時携帯する。また研修医がローテーションする診療科・施設での研修終了時に、自己および研修責任者が研修評価を新しい全国共通オンライン評価システム（PG-EPOC）に入力し、研修内容の調整などのフィードバックをおこなう。

研修医の出身大学（過去5年）

令和3年度：京都大、大阪大、神戸大、徳島大、鳥取大、島根大、福井大、大分大、奈良県立医科大学、
大阪市立大、大阪医科大、兵庫医科大、札幌医科大
令和4年度：京都大、神戸大、北海道大、富山大、福井大、島根大、山口大、香川大、大分大、
滋賀医科大、大阪市立大、京都府立医科大、兵庫医科大、大阪医科薬科大、慶應義塾大
令和5年度：京都大、大阪大、神戸大、筑波大、広島大、徳島大、香川大、琉球大、京都府立医科大、
大阪市立大、滋賀医科大
令和6年度：京都大、神戸大、島根大、山口大、三重大、山梨大、大阪公立大、京都府立医科大、
滋賀医科大、名古屋市立大
令和7年度：京都大、神戸大、鳥取大、愛媛大、大阪大、兵庫医科大、京都府立医科大、宮崎大、
徳島大、大分大、岡山大、長崎大、山口大

研修終了後の主な進路

兵庫県立病院の専攻医制度により、臨床研修終了後も引き続き11県立病院に勤務可能。
当院専攻医研修期間は3～4年間で、当院全体で約120名在籍。
平成20年度からフェロー（卒後6～7年目の2年間コース）制度が導入されている。
勤務可能な11県立病院：尼崎総合医療センター、西宮病院、加古川医療センター、
淡路医療センター、ひょうごこころの医療センター、丹波医療センター、こども病院、
がんセンター、はりま姫路総合医療センター、粒子線医療センター、災害医療センター

募集と採用

公募。マッチングシステムに参加し採用決定。
募集人数：一般コース19名、小児科コース2名、産科コース2名

処遇（令和7年度実績）

勤務形態	会計年度任用職員（フルタイム）
勤務時間	週38時間45分勤務（1日7時間45分、アルバイト禁止）
給与	1年次 月額310,700円（別途期末・勤勉手当） 2年次 月額324,400円（別途期末・勤勉手当）
手当	通勤手当、超過勤務手当、夜勤手当等
宿舍	あり（住居費自己負担あり：単身用のみ16,400～20,000円）
休暇	有給休暇1年目10日、2年目11日 夏季休暇年間5日、子育て休暇、忌引き休暇等
当直	月3～4回、上級医のもとで当直業務を行う
社保	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険 有
食事	病院内に弁当販売及びコンビニエンスストアあり、いずれも個人負担
駐車場	緊急時の使用のみ
健康管理	定期健康診断、肝炎ウイルス検査、インフルエンザ予防注射 有
医師賠償責任保険	県立病院として加入済み
超過勤務時間（前年度実績）	平均約721時間、最大約958時間
※ 当直において、翌日勤務の振替え分（7時間45分）以外は超過勤務時間に含まれます。	

臨床研修に必要な施設・機材・診療要員の配置

メディカルライブラリー	24時間利用可能。室内設置の端末を含む、院内の電子カルテ端末すべてからインターネットへのアクセスが可能。契約中の電子リソースへは、リンクリゾルバ（SFX）によりナビゲート。
院内で利用できる資料	外国雑誌はオンラインジャーナルがメインで、パッケージ（ClinicalKey、SpringerLink for Corporate & Health、Ovid Clinical Edge Advantage Premium、MEDLINE Complete）の他、単体分を併せて、約5,900誌。国内雑誌は冊子体に加え、メディカルオンラインや医書jpも利用でき、約1,800誌。電子書籍は主にパッケージ分で、約20,000冊。
文献検索・EBMツール	UpToDate、Cochrane Library、今日の診療、医中誌Web等が利用可能で、PubMedは当院専用URLあり。
文献取り寄せ	メディカルライブラリー担当者に依頼。費用は原則として、実費のみ個人負担。
医学教育用シミュレーター	中心静脈穿刺シミュレーター、気管内挿管人形(3)、ACLS 用人形(3)、BLS 用人形(10)

病院説明会

AGMCオンライン説明会

令和7年5月24日（土）10：00～

院長挨拶、プログラム説明、在籍研修医と質疑

病院見学について

「当院ホームページ 採用希望の方へのお知らせ」<https://agmc.hyogo.jp/news/recruit/2023-02-17>
より見学申込書に必要事項を記入の上、E-mailにて申込み

出願手続き

応募資格 令和7年度医師国家試験受験予定者

募集期間 令和7年6月9日（月）～7月18日（金）必着

出願方法 1 兵庫県ホームページから電子申請
令和8年度兵庫県立病院臨床研修医受験申込フォームにて申込み
2 兵庫県病院局管理課へ郵送
卒業（見込）証明書、成績証明書、小論文

選考方法 筆記試験（医学一般・英語 多肢選択方式）、面接試験および書類審査

試験日 令和7年8月8日（金）（午前：筆記 午後：面接）

予備日：令和7年8月22日（金）（午前：筆記 午後：面接）

※ 8日が実施不能の場合、予備日に実施します。

詳細は応募者に別途通知。

留意事項 応募にあたっては令和7年7月31日（木）までにマッチングに参加登録をしてください。

研修開始日 令和8年4月1日

問い合わせ先

〒660-8550 尼崎市東難波町2丁目17番77号

兵庫県立尼崎総合医療センター 総務課 島村

TEL 06-6480-7000 FAX 06-6480-7001

Email: resident@agmc.hyogo.jp

「当院ホームページ 採用希望の方へのお知らせ」

